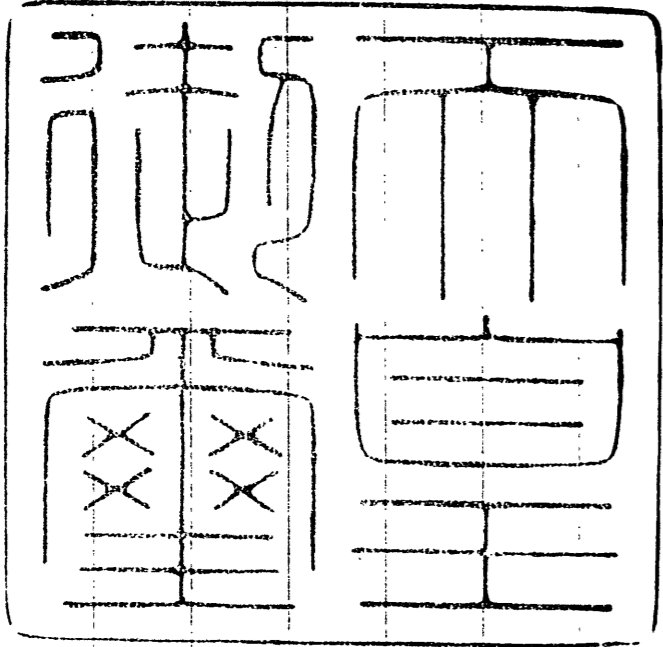


總内大司農商運

勅令第二百三十三號

朕昭和二十年勅令第五百四十二號「ボツギム」宣言
ノ受諾ニ伴ヒ發スル命令ニ關スル件ニ基ク持株會
社整理委員會令ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

裕仁



昭和二十一年四月十九日

昭和二十一年四月十九日

内閣總理大臣 男爵幣原喜重郎

内務大臣 三土忠造

司法大臣 岩田宙造

大藏大臣 子爵澁澤榮三

商工大臣 小室重正

農林大臣 副島正人

運輸大臣 村上義一

勅令第二百三十三號

持株會社整理委員會令

第一條 持株會社整理委員會（以下整理委員會ト稱ス）ハ企業ノ所有
及經營ノ民主化ヲ圖ル爲本令ノ定ムル所ニ依リ指定セラルル會社（
以下持株會社ト稱ス）ノ所有スル證券ハ有價證券其ノ他財産權ヲ設
スル證券ヲ謂フ以下同ジ）其ノ他ノ財産ヲ讓受ケ之ヲ管理及處分シ
以テ持株會社ノ整理ヲ促進スルコトヲ目的トス
整理委員會ハ法人トス

第二條 整理委員會ハ主タル事務所ヲ東京都ニ置ク

第三條 整理委員會ハ定款ヲ以テ左ノ事項ヲ規定スベシ

一 目的

二 名稱

三 事務所ノ所在地

四 委員ニ關スル事項

五 委員長、常務委員及監査委員ニ關スル事項

六 業務及其ノ執行ニ關スル事項

七 會計ニ關スル事項

八 公告ノ方法

第四條 整理委員會ハ命令ノ定ムル所ニ限リ登記ヲ爲スコトヲ要ス
前項ノ規定ニ依リ登記スベキ事項ハ登記ノ後ニ非ザレバ之ヲ以テ第
三者ニ對シスルコトヲ得ズ

第五條 整理委員會ハ委員若干人ヲ以テ之ヲ組織ス

委員ハ學識經驗アル者ノ中ヨリ内閣總理大臣之ヲ命ズ

委員ノ任期ハ一年六月トス但シ委員長、常務委員又ハ監査委員タル

委員ニ付テハ第六條第三項ニ規定スル各期間ノ滿了スルニ至ル迄各
其ノ任期ヲ伸長ス

整理委員會ノ成立後ニ於テ委員ノ任期满了、死亡其ノ他ノ事由ニ因
リ新ニ委員ヲ命ズル場合ニ於テハ内閣總理大臣ハ持株會社整理監査
委員會（以下監査委員會ト稱ス）ノ承認ヲ經ルコトヲ要ス
監査委員會ニ關スル規程ハ別ニ之ヲ定ム

第六條 整理委員會ニ委員長、常務委員及監査委員ヲ置ク

委員長、常務委員及監査委員ハ委員ノ中ヨリ内閣總理大臣之ヲ命ズ

委員長ノ任期ハ三年、常務委員ノ任期ハ一年六月、監査委員ノ任期ハ二年トス

整理委員會、成立後ニ於テ委員長、常務委員又ハ監査委員ノ任期满了、死亡其ノ他ノ事由ニ因リ新ニ委員長、常務委員又ハ監査委員ヲ命ズル場合ニ於テハ内閣總理大臣ハ監査委員會ノ承認ヲ經ルコトヲ要ス

委員長ハ整理委員會ヲ代表シ其ノ業務ヲ總理ス

常務委員ハ定款ノ定ムル所ニ依リ整理委員會ヲ代表シ其ノ業務ヲ執行ス

監査委員ハ整理委員會ノ業務ノ執行ヲ監査ス

第七條 委員長ハ定款ノ定ムル所ニ依リ從タル事務所ノ業務ニ關シ一

切ノ裁判上又ハ裁判外ノ行爲ヲ爲ス權限ヲ有スル代理人ヲ選任スルコトヲ得

第八條 整理委員會ノ職員ハ之ヲ法令ニ依リ公務ニ従事スル職員ト看做ス

第九條 整理委員會ハ左ノ業務ヲ行フ

- 一 持株會社ヨリ其ノ所有スル證券及其ノ他ノ財產ニシテ整理委員會ノ必要ト認ムルモノヲ讓受ケルコト
- 二 持株會社ヨリ讓受ケタル證券其ノ他ノ財產（以下讓受財產ト稱ス）ヲ管理及處分スルコト
- 三 持株會社ノ解散ニ至ル迄ノ業務ノ執行及清算ノ遂行ヲ指導監督スルコト

四 前各號ノ業務ニ附帶スル業務ヲ行フコト

整理委員會前項ノ業務ヲ行フニ付テハ持株會社整理ノ目的ニ反シザ

ル限度ニ於テ小株主ノ利益ノ保護ニ留意スルヲ要スルモノトス

整理委員會ノ業務ニ關スル取會議ニ於テ之ヲ決ス

第十條 整理委員會ハ持株會社ノ整理ヲ促進スル爲必要アリト認ムル

トキハ持株會社ニ對シ其所有スル證券其ノ他ノ財産ヲ整理委員會ニ

讓渡スベキコトヲ指示スルコトヲ得

第十一條 整理委員會持株會社ヨリ證券其ノ他ノ財産ヲ讓受ケタルト

キハ持株會社ニ對シ讓受財産ノ受價證書ヲ交付スルコトヲ要ス

整理委員會ノ受價證書ト引換ニ之ヲ爲

スニ非ザレバ其ノ效力ヲ生ゼズ

第十二條 受價證書ハ整理委員會ノ承認ヲ受ケルニ非ザレバ之ヲ讓渡

シ又ハ債務ノ擔保ニ供スルコトヲ得ズ

受價證書ノ所有者ガ前項ノ承認ヲ受ケテ之ヲ讓渡シ又ハ債務ノ擔保

ニ供シタルトキハ整理委員會ニ對シ讓渡ヒラレタル證券其ノ他ノ財

産ノ對價ノ請求權ニ付當該處分ニ關シタルモノト看做ス

第十三條 整理委員會ニ違反シテ爲サレタル行爲ハ之ヲ無効トス

結了後其ノ處分價格ヲ基準トシ之ヲ超エザル限度ニ於テ整理委員會

内閣總理大臣ノ認可ヲ受ケテ之ヲ定ム

第十四條 讓受財産ヨリ生ズル收益ハ命令ノ定ムル所ニ依リ整理委員

前項ニ規定スル限度ヲ超エテ爲サレタル對價ノ決定ハ之ヲ無効トス

第十四條 讓受財産ヨリ生ズル收益ハ命令ノ定ムル所ニ依リ整理委員

會ヨリ持株會社ニ之ヲ無償ニテ譲渡スルモノトス

第十五條 讓受財産ノ對價ノ辨濟ハ命令ヲ以テ定ムル場合ヲ除クノ外
讓受財産ノ處分結了後整理委員會受領證書ノ所有者ニ對シ登録國債
ヲ交付シテ之ヲ爲ス

前項ノ國債ハ交付ノ日ヨリ十年以上ノ償還期限ノ有スルコトヲ要ス
第一項ノ國債ノ交付價格ハ命令ノ定ムル所ニ依ル

第十六條 前條ノ規定ニ依リ登録國債ノ交付ヲ受ケタル者、持株會社
ノ株主又ハ出資者ニシテ前條ノ規定ニ依リ登録國債ノ交付ヲ受ケタ
ル者ヨリ當該登録國債ヲ讓受ケタルモノ及此等ノ一般承繼人其ノ他
整理委員會ノ指定スル者ハ整理委員會ノ承認ヲ受ケルニ非ザレバ之
ヲ譲渡シ又ハ債務ノ擔保ニ供フルコトヲ得ズ

前項ノ規定ニ違反シテ爲サレタル行爲ハ之ヲ無効トス

第十七條 第一項ニ規定スル者國債ノ登録除却ヲ請求ヒントスルトキハ整理委
員會ノ承認ヲ受クベシ

第十七條 整理委員會ハ其ノ讓受ケタル證券ニ付有スル議決權ヲ適正
ナル企業經理ノ確保、企業ノ管理及運營方式ノ變更竝ニ第一條第一
項ニ掲グル目的ヲ實現スル様之ヲ行ハスルコトヲ要ス

第十八條 整理委員會ハ持株會社ニ對シ其ノ解散ニ至ル迄ノ常務ノ執
行又ハ清算ノ遂行ニ關シ監督上必要ナル指示ヲ爲スコトヲ得

第十九條 整理委員會ハ持株會社ニ對シ業務及財産ノ狀況ニ關シ報告
ヲ受サシメ又ハ委員ヲシテ帳簿書類其ノ他ノ物件ヲ検査ヒラセラルコ
トヲ得

第二十條 整理委員會ノ事業年度ハ四月ヨリ翌三月迄トス

第二十一條 整理委員會ハ每事業年度ノ整理委員會經費收支計算書並

ニ讓受財産ニ關スル財産目録及收支計算書ヲ作成シテ每事業年度經

過後二月以内ニ之ヲ内閣總理大臣及監査委員會ニ提出スベシ

第二十二條 内閣總理大臣ハ整理委員會検査人(以下検査人ト稱ス)

ヲシテ何種ニテモ整理委員會ノ業務及財産ノ狀況ヲ検査セシムルコ

トヲ得

検査人ハ學識經驗アル者ノ中ヨリ内閣總理大臣之ヲ命ズ

検査人ノ任期ハ二年トス但シ特別ノ事由アル場合ニ於テハ任期中之

ヲ解任スルコトヲ妨ゲズ

第二十三條 検査人ハ整理委員會ノ業務及財産ノ狀況ヲ検査シタルト

キハ内閣總理大臣及委員長ニ検査報告書ヲ提出スベシ

検査人ハ何種ニテモ整理委員會ニ金ジ業務及財産ノ狀況ヲ報告セシ

ムルコトヲ得

第二十四條 整理委員會ノ委員長ハ利害關係人ノ關シニ供スル爲前條

第一項ノ規定ニ依ル検査報告書ヲ整理委員會ノ主タル事務所ニ備置

ケコトヲ要ス

第二十五條 内閣總理大臣ハ整理委員會ノ委員長、常務委員又ハ監査委員ノ

行ニテ法令又ハ定款ニ違反シタルトキ、公益ヲ害シタルトキ其ノ他

整理委員會ノ業務ノ運営上不適當ナリト認ムルトキハ監査委員會ノ

承認ヲ經テ委員、委員長、常務委員又ハ監査委員ヲ免ズルコトヲ得

第二十六條 整理委員會ハ目的ノ達成ニ因リテ解散ス

整理委員會ノ解散ノ場合ニ於ケル必要ナル事項ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第二十七條 民法第四十四條、第五十條及第五十七條並ニ非訟事件手續法第三十五條第一項ノ規定ハ整理委員會ニ之ヲ準用ス

第二十八條 整理委員會ニハ所得稅、法人稅、營業稅及有價證券移轉稅ヲ課セズ

第二十九條 整理委員會ノ讓受財産ニ付生ズル所得ニ關シテハ持株會社ガ當該財産ヲ有スルモノト看做シ所得稅及配當利子特別稅ヲ賦課ス

持株會社ハ解散シタル後ト雖モ整理委員會ニ於テ讓受財産ノ處分ヲ結了スルニ至ル迄ハ所得稅法、法人稅法、營業稅法及臨時利得稅法

ノ適用ニ關シテハ解散セザルモノト看做ス

前項ノ期間中ニ於テ爲シタル殘餘財産ノ分配ハ所得稅法、法人稅法及營業稅法ノ適用ニ關シテハ命令ヲ以テ定ムル場合ヲ除クノ外之ヲ法人ノ利益ノ配當ト看做ス

第三十條 本令ニ規定スルモノノ外持株會社ノ清算ニ關シ第一條第一項ニ掲グル目的ヲ實現スル爲必要ナル事項ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第三十一條 持株會社ガ第十八條ノ規定ニ依リ指示ニ違反シタルトキ又ハ第十九條ノ規定ニ依ル報告ヲ爲サズ若ハ虛偽ノ報告ヲ爲シ若ハ委員ノ検査ヲ拒ミ、妨ゲ若ハ忌避シタルトキハ整理委員會ハ持株會社ノ取締役、清算人其ノ他此等ニ準ズル者ヲ解任スルコトヲ得

第三十二條 第十條ノ規定ニ依ル指示ノ違反アリタル場合ニ於テハ當

該持株會社ノ取締役又ハ之ニ準ズル者ヲ三年以下ノ懲役又ハ五萬圓以下ノ罰金ニ處ス

第三十三條 持株會社ガ第十九條ノ規定ニ依ル報告ヲ爲サズ又ハ虛偽ノ報告ヲ爲シタルトキハ取締役、清算人又ハ此等ニ準ズル者ヲ三年以下ノ懲役又ハ五萬圓以下ノ罰金ニ處ス同條ノ規定ニ依ル委員ノ検査ヲ拒ミ、妨ゲ又ハ忌避シタル者亦同ジ

第三十四條 第十八條ノ規定ニ依ル指示ノ違反アリタル場合ニ於テハ當該持株會社ノ取締役、清算人又ハ此等ニ準ズル者ヲ一年以下ノ懲役又ハ一萬圓以下ノ罰金ニ處ス

第三十五條 整理委員會ガ第二十一條ノ規定ニ違反シ當該書類ヲ提出セズ若ハ虛偽ノ記載ヲ爲シタル書類ヲ提出シタルトキ又ハ第二十三

條第二項ノ規定ニ依ル報告ヲ爲サズ若ハ虛偽ノ報告ヲ爲シタルトキハ委員長又ハ常務委員ヲ一年以下ノ懲役又ハ一萬圓以下ノ罰金ニ處ス検査人が同條第一項ノ規定ニ違反シ検査報告書ヲ提出セズ又ハ虛偽ノ記載ヲ爲シタル検査報告書ヲ提出シタルトキ其ノ者ノ罰亦同ジ

第三十六條 前四條ノ罪ヲ犯シタル者ニハ情狀ニ因リ懲役及罰金ヲ併シタル者ノ罰亦前項ニ同ジ

第三十七條 本令若ハ本令ニ基キテ發スル命令ニ違反シ登記ヲ爲スルトキ怠リ若ハ不正ノ登記ヲ爲シタルトキ又ハ第二十四條ノ規定ニ依ル書類ヲ備置カザルトキハ整理委員會ノ委員長又ハ常務委員ヲ千圓

科スルコトヲ得

以下ノ過料ニ處ス

第三十八條 本令ニ依リ内閣總理大臣ノ權限ニ屬スル事項ニ關スル事務ハ内閣官房ニ於テ之ヲ掌ル

附 則

第三十九條 本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

第四十條 内閣總理大臣ハ設立委員ヲ命ジ整理委員會ノ設立ニ關スル事務ヲ處理セシム

第四十一條 設立委員ハ定款ヲ作成シ内閣總理大臣ノ認可ヲ受ケルベシ

第四十二條 前條ノ認可アリタルニキハ設立委員ハ遲滯ナク其ノ事務ヲ整理委員會委員長ニ引渡スベシ

於テ設立ノ登記ヲ爲スベシ

整理委員會ハ前項ノ登記ヲ爲スニ因リテ成立ス

第四十三條 第一條第一項ノ規定ニ依ル指定ハ整理委員會ノ成立後一年六月以内ニ整理委員會ノ意見ニ基キ内閣總理大臣之ヲ爲スモノトス

第四十條 登録税法中左ノ通改正ス

第十九條第七號中「又ハ鹽業組合中央會」ヲ「鹽業組合中央會又ハ持株會社整理委員會」ニ、「又ハ鹽專賣法」ヲ「鹽專賣法又ハ持株會社整理委員會令」ニ改ム